

## 急成長する中国のインターネットファイナンスの動向と今後の課題

野村資本市場研究所 李立栄

中国において近年インターネット企業による金融サービスへの参入が活発化しており、特にコンシューマー向けのサービスが急成長している。この背景には、①中国当局の規制緩和、②インターネット人口の爆発的増加、③第三者決済をめぐる法規制の明確化、④金利規制に対する裁定機会の存在などがある。

第三者決済は電子商取引の安全を図るために生まれたサービスである。第三者決済の利用者は近年爆発的に増加しており、登録者ベースで8億人以上に達する。近年は第三者決済のプラットフォームで即日資金化可能なMMF（余額宝）の販売も行われており、銀行預金より有利で利便性も高いことから、利用が急増している。すなわち、余額宝は発売以来僅か1年で開設口座数が1億件を突破し、資産残高が5,742億元（約12兆円）に達し世界第四位のファンドとなった。インターネット事業者が提供するMMFファンドへの資金流出の加速は、伝統的な金融機関にとって大きな脅威となりつつある。

また、インターネット上のプラットフォームを通じて融資の貸し手と借り手をマッチングさせるP2Pレンディングも、中小企業をはじめとする強い資金調達ニーズとより有利な運用先を求める投資家ニーズを背景として急速に市場が拡大している。

コンシューマー向けインターネットファイナンスが発達した意義としては、①金融サービスレベルの飛躍的な向上、②金融包摂の進展、③銀行以外の新たな決済プラットフォームの登場、が指摘できる。当局は消費者保護、リスク管理の観点から規制監督を強化する方針であるが、彼らを金融イノベーションの担い手として活用し、既存金融機関を含む金融システムのレベルアップを図る意図が伺われる。

本報告では、急成長する中国のインターネットファイナンスの動向と発展経緯を整理する。具体的には、革新的な第三者決済サービス「支付宝」（アリペイ）、オンラインMMF（余額宝）、P2Pレンディング、クラウドファンディング、非P2Pレンディングの小額貸付（ネット小額貸付）について言及する。さらに、中国のインターネットファイナンスの規制監督上の課題を明らかにする。